

発行日／2017年8月1日

編集発行／HAJ 様北海道アルバイト情報社

TAKE
FREE

vol.6

マチ歩きBOOK

ほ 歩らいぶ 釧路 北大通 & 駅ウラ エリア



とこここ、てくてく、マチ歩き。

ドライブもいいけど、たまには「歩らいぶ」もいいよね。

霧が晴れたら歩いてみよう。

素敵なお出でいがきっと待ってるよ。



マチ歩きBOOK「歩らいぶ」vol.6

釧路 北大通&駅ウラエリア

発行日 2017年8月1日

編集発行 HAJ 株北海道アルバイト情報社

札幌市中央区南2条西6丁目13-1

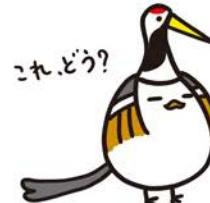
tel.011-223-3533

e-mail : holive@haj.co.jp

「仕事や暮らしを通して、人もマチももっと元気になって欲しい。」

マチ歩きBOOK歩らいぶは、そんな思いから生まれた、

HAJ 株北海道アルバイト情報社が企画・制作するフリーマガジンです。



トリコさん
カメラが趣味
ちょっと短気だけどしっかり者



ホライちゃん
ご当地モノの被り物が趣味
食べるのも飲むのも好き

いつも通るこの道。

いつも見るこの景色。

いつもは何気なく通り過ぎるこのマチを、たまにはじっくり歩いてみませんか。

霧笛が響く霧のマチ。

大漁旗をたなびかせ、意氣揚々と戻る船。サバにサンマにスケトウダラ。

海の恵みを船いっぱいに積み込んで、待ち人の元へ向かいます。

帰ったら、母ちゃんと子供らを

丸三鶴屋に連れてって、

それから泉屋でご飯を食べようか。

マチにはデパートや

映画館がいくつもあって、

屋も夜もにぎやかで、

大人も子供もワクワクしたものでした。

「なんもないしょ」と人は言います。

活気に満ちてきらめいていたあの頃。

今ではすっかり静かになったマチ。

漁業で栄えたこのマチの

今も変わらぬ「心意氣」

でも、歩いてみて気がつきました。

何十年も客待つ店に、何十年も通う客。

栄枯盛衰を共にした者同士の会話は、

素っ気ないけどどこか温かく、

同じ場所、変わらぬスタイルで

何十年も客待つ店に、何十年も通う客。

栄枯盛衰を共にした者同士の会話は、

そこではまるで息子のよう。

歩いてみて気がつきました。

人見知りで口べたで、ちょっとぶっきらぼう。

だけどホントはあつたかい釧路人。

本当はみんなこのマチが好きなんだと。

このマチは、ネットや情報誌では見慣れたはずの景色の中に、きっと素敵なお逢いがあるはずです。

だから、歩いてみませんか。

このマチは、ネットや情報誌では見慣れたはずの景色の中に、

きっと素敵なお逢いがあるはずです。

CONTENTS

- 04 釧路のすてきな仕事人
- カフェとバル ルバ 平田知之さん・沙緒里さん
- 喫茶BROS 木嶋秀康さん
- HANANOYA 松田啓一さん
- 13 わがマチの風景 行商のおばちゃんのハナシ
- 14 ことこマップ 北大通&駅ウラエリア
- 20 夜もトコトコ未広放浪記
- 22 わがマチの風景 赤ちょうちん横丁のハナシ
- 26 アイアム釧路人
- 32 わがマチの風景 レストラン泉屋のハナシ
- 34 港町スイーツ図鑑
- 36 われらマチの応援隊

企画・編集
北海道アルバイト情報社「歩らぶ編集チーム」

取材・株式会社北海道アルバイト情報社「木田奈津子・田村仁志・伊藤新

有限会社シース・上坂竜彦

〔デザイン〕株式会社アリオンド・山崎啓太郎

〔イラストレーション〕似鳥春彌

〔港町スイーツ図鑑〕新井早実・札幌大谷大学

〔撮影〕工藤了

〔協力〕市民団体クスカ くしろ北大通商店街振興組合



人気の「ルバ万プレートランチ」。キノコやレンコン、ひよこ豆にじゃがいもといった野菜がたっぷり。ベーコンやマヨネーズは自家製なのだとか。

釧路の「マチ」といえば、かつては北大通だった。けれど、今はオフィスビルが建ち並ぶばかり。お店も減ってしまったこのエリアに、敢えてカフェ＆バルを開いたのが平田さん夫婦だ。

いつか自分たちのお店を、若い一人が語り合った夢。
「どうも、わざわざすみません。さああお座りください」。屈託のない笑顔と柔らかすぎるほど柔らかい物腰で迎えてくれたのが、「カフェとバル Repas(ルパ)」の店主の平田知之さん。営業マンを彷彿とさせるような爽やかさだが、釧路の高校を卒業してからは料理の道に一直線だという。

「札幌の調理専門学校を出てからは、神奈川のフレンチレストランで修業しました。あのころは

関東圏に住んでみたいってあこがれだけで、北海道を出ちゃつたんですよ(笑)」

当時の飲食業界は昔ながらの徒弟制度が色濃く根づいていた。知之さんは先輩を手伝いながら、時に怒鳴られることがあつても、技術を磨こうと必死に働いたと振り返る。3年ほど

して、ある程度の自信がついたタイミングで北海道にヒターンし、今度はトマムのレストランで腕を振るうことになった。そこで出会ったのが知之さんの隣で微笑む奥様の沙緒里さんだ。

「え?どこに惹かれたかって?」
さすがに恥ずかしくて言えません(苦笑)」「私もノーコメント(笑)」なんだか息がぴたり。お二人はいつか自分たちの店を持ちたいと夢を語り合うようになり、9年ほど前に結婚。

沙緒里さんがお子さんを出産した後は、子育てのために彼女の実家がある新潟県に暮らすことになった。



クラフトビールの魅力に取りつかれた新潟時代。

知之さんは、新潟県でクラフトビールを看板商品とするビストロで働いた。それまではワインを飲むことが多かったが、せっかく勤めるのだからと初めてクラフトビールを口にした瞬間、その魅力に取りつかれたと熱っぽく語る。

「スワンレイクという醸造所が手がけたクラフトビールを飲んだ時、本当にビール?と驚いたんです。ホップの香りが白ぶどうのよう、まるでシャンパンを飲んでいるみたいでした。それからとくに、毎日1本クラフトビールを買って、味の違いや特徴を勉強するようになつたんです」



思い出の中のマチナ力に、小さな恩返しを。

カフェとバル Repas(ルパ)
店主 平田知之さん(36歳)
平田沙緒里さん(34歳)



釧路のすてきな仕事人

沙緒里さんは製菓専門学校を卒業し、ケーキ屋さんで働いた経験もあることからお菓子づくりは得意。加えて、いずれ二人のお店に役立てたいと自家焙煎の

コーヒー店でスペシャルティやラテアートの腕を磨いた。「勤務が終わったあとにラテアートの練習をしていたんですが、捨てるのがもったいないから、水筒がいっぱいになるくらいのカフェラテを持って帰っていました」といたずらっぽく笑う。

転機となったのは3年ほど前。知之さんのお父様が病気を患つてしまつたため、一家で釧路に戻ることに。新潟時代から近いうちにお店を持ちたいと考えていたとはいえ、資金やプランの面から一歩を踏み出せずにいた。まずは市内のレストランで働いたものの、残念なことにほどなくして閉店。「年齢やタイミングを考えるとやるなら今しかない。夫婦が手を取り合えば壁も乗り越えられ

る。そんな気持ちでお店を開く決心をしました」

マジメで一生懸命な夫婦。



釧路のすてきな仕事人

心に寄り添う選曲と、音楽の不思議な力と。

喫茶BROS

代表 木嶋秀康さん(56歳)



カフェとバルRepas

住所 釧路市北大通6-2
TEL 0154-65-1126
営業時間 10:00~22:00
休日 日曜日・祝日

「かつてのマチナカ」の北大通を立地に選んだのはどうしてなのだろう。

「久しぶりに釧路に戻ってきて、寂しい気持ちに見舞われたんですね。子どものころはデパートがあり、おもちゃ屋さんがあり、映画館があり、何はなくとも北大通りに出かけていたものだけれど今は…。だから、楽しめてもらつたこのエリアに、どんなに小さくても恩返しがしたくて」

食材は極力自分たちの足で探し、近隣の農園やチーズ工房から調達している。知之さんは釧路生まれだからこそ「しっかりと食事を味好む方が多い」と分析するが、素材の味をギリギリ壊さずに入料理を楽しめるよう仕上げているというからさすがの一言。

「近隣のビジネスマンの方もランチを食べに来てくださったり、テイクアウトのお弁当を買ってくださったり。思った以上にニーズの高さを実感しています。ウチ

は恐らく釧路初の国産クラブトピールの樽生を提供しているので、30~40代の食やお酒への感度の高いお客様にも珍しさがされているんです。そんな皆さんに支えられて、どうにか3年目を迎えられました」

お二人の夢は「少しでも長くお店を続けること」とあくまで控えめ。けれど、11時を回ったところでお客様がコーヒーを飲みに来たり、事前に注文していたお弁当を受け取りにきたり、続々と人が訪れる。その様子は、マジメで一生懸命な二人がこの先も釧路人の笑顔を生み出していくという未来を映し出しているようだった。



なんだか落ち着く。

JAZZ & SOUL「喫茶BROS」に足を踏み入れると誰もがそう感じるはず。この居心地の良さのヒミツは、長いヒゲを蓄えたマスターにあるようだ。

人生を形づくった、中学2年生の出来事。

釧路の音楽好きやカルチャーキーマンが集うJAZZ&SOUL「喫茶BROS」。代表の木嶋秀康さんは看板に掲げられている通り、ジャズとソウルにとりわけ愛着が深い。

「俺はもともと音楽が好きですね。昔はハードロック小僧だったんだけど、中学2年生の時に運命の出会いを果たしたワケ」

それはステイービー・ワンダーの一枚のレコード。仲の良い友人から「ソウル」というジャンルらしいと説かれ、胸を高鳴らせてスケッピングの前に座った。緩やかながら深いビート。伸びやかなピーカーの前に座った。緩やかなら歌いあげる声。木嶋少年の心に衝撃が走った。

「実はこの話にはオチがあるってさ。友達が間違えてB面の『悪夢』って曲からかけちゃったんだけど、それが良かった。A面はやさしく静かな感じだから、先に聞いていたらココまでハマらなかつたと思うよ」

た。持ち時間のうちに選曲の起承転結をつけるとか、あと5分だからこの曲の1分を挟んでみようとか、イチイチ時計を見なくて、も体感で分かるんだ。で、レコードに集中して、お客様が盛り上がるど、これ以上ないくらい幸せな波が押し寄せるんだよね」

木嶋さんは腕を貰われてディスコを数店ほど渡り歩き、20代にして釧路初のDJバーを開いた。若さゆえの失敗や身の丈に合わない店づくり、人の教育など苦労に苦労を重ねた結果、今まで店づくり、人の教育など苦労に苦労を重ねた結果、今は「喫茶BROS」があることにはじうまでもない。

兄弟の部屋のような場所を目指して。

意外かもしれないが、木嶋さんは下戸。これまで25年以上バー形式のお店を続けてきたが、四半世纪が経ったころに、「好きなお店



店内にはターンテーブルとミキサーを備えたDJブースも。木嶋さんはイベントの依頼があれば、今でもDJプレイでフロアを沸かせている。

JAZZ&SOUL 喫茶BROS

① 釧路市大川町3-12北塩ビル1F
② 0154-41-6822
③ 14:00~22:00(L021:30)
④ 第3日曜日(不定休)



ほぼ時を同じくして、木嶋さんがお店を開きたいと思い、描くきっかけも訪れた。中学2年生という思春期の真っただ中。意中の人にフラれ、失意のまま近くの喫茶店の扉を開くと、女性店主が「なんがあった？」とすぐに声をかけてくれたという。

「どうして分かるの?」ってピックリしゃって。次のセリフが「好きな子にでもフラれたんだ」でした。もう、心が読める魔法使いか顔を見て、将来はこういう仕事をしてみたいって気持ちが湧いてきたんだよね」

木嶋さんは高校に進学する、と、ますます音楽に傾倒。釧路のレコード店に足しげく通つては、新譜の入荷日を頭に叩き込み、時のディスコブームからダンスフロアにも繰り出した。本人曰く、「ちょうど元気のいい少年」だったこともあり、学校はドロップアウトしたという。

「しばらくはプログラっていたんだけど、18歳になつてからディスコでお世話になることにしたんだ。でも、いきなりDJなんてさせてもえつこない。まずはドアマンとして8時間立ち放しの日々、休憩は1時間に3分。その間だけ屈伸が許された。しかも時計を見ずに3分を予測し、先輩がストップウォッチで誤差を計つて厳しく指摘されていたとか。3ヶ月後には店内でトレーナーを持つようになつたが、15分おきに客席の灰皿を交換する際も時間は感覚だけが頼りだったという。

「シゴキに聞こえるかも知れないけど、コレが後々DJに役立つ

分に合った曲が流れると落ち着くんだよね」

毎月第三日曜にはジャムセッションを開くそう。木嶋さんはサックスを担当しているが、「まだ下手でね」と笑う。お話を上手で、面白くて、やさしさに満ちていて、すっかり尋ねるのを忘れていた。店名の由来つて何?

「黒人がよく使うブラザーズの略語。親子でも友だちでもなく、て、だけど何でも話せるような兄弟みたいな存在でありたいと思つてつけた名前なんだよね」

あ、居心地の良さが分かった。年下からは兄貴のように頼られ、年上からは弟のように可愛がられる木嶋さん。この場所はみんなにとっての「兄弟の部屋」なのだ。

いや…むしろ音楽に「今かけてやれ」って背中を押される感じかな。音楽って不思議なもので、心のバランスが乱れていても気



カウンターの常連さんとお話しする木嶋さん。
「自分がかけた音楽で喜んでくれる人の顔を見るのが喜び」と微笑む。



原田康子氏の小説をモチーフにしたオリジナルカクテル『挽歌』。これがバーテンダー協会の北海道大会3位に入賞。

当時は釧路港にこれでもかというほど魚が揚がり、採炭や製紙業の勢いも最盛期だったことからマチは好景気に沸いていた

某ロックスターを彷彿とさせる「HANANOYA」なる看板。陽気なファンが集う酒場かと思ひドアを開けると、意外にもそこはオーセンティックなバー空間だった。

内定が決まっていても、釧路に戻ってきた理由。

お店を切り盛りするバーテンダーの松田啓一さんは末広エリアの生まれ。今となっては釧路屈指の繁華街だが、幼いころは住宅街だったと振り返る。

「祖母が戦前に『花乃家』という料理屋を開いていて、ウチはその名前を借りた形なんです。戦争で一度はお店を閉じたんだけど、昭和25年に『喜水』という料亭として再スタートを切ったんだが、だからマチは好景気に沸いていた

「僕が学生のころ、社長（松田さんの叔母様）が釧路に4店舗くらいの飲食店を開いていてね。」

社長の親戚とはいえ、松田さんは特別扱いを受けず下積みからのスタート。半年ほどはクラブで食器や皿を洗い、板状の大きな氷を手作業で割り続けるという日々を過ごした。

昭和50年代の釧路にはオーセンティックなバーではなく、ママとチーフ（バーテンダー）と数名のホステスがお客様をもてなすスナックバーというスタイルが主流だった。当時のドリンクといえば甲類焼酎の番茶割りや梅割り。とはいえ、松田さんはカクテルのレシピ本を眺めるうちにどうしてもつづつみなくなり、初心者向けのジンフィズやバイオレットフizzesを練習した。

甲類焼酎の全盛時代に、ジンフィズを猛練習。

当時は釧路港にこれでもかというほど魚が揚がり、採炭や製紙業の勢いも最盛期だったことからマチは好景気に沸いていた

「僕が学生のころ、社長（松田さんの叔母様）が釧路に4店舗くらいの飲食店を開いていてね。」

社長の親戚とはいえ、松田さんは特別扱いを受けず下積みからのスタート。半年ほどはクラブで食器や皿を洗い、板状の大きな氷を手作業で割り続けるという日々を過ごした。

昭和50年代の釧路にはオーセンティックなバーではなく、ママとチーフ（バーテンダー）と数名のホステスがお客様をもてなすスナックバーというスタイルが主流だった。当時のドリンクといえば甲類焼酎の番茶割りや梅割り。とはいえ、松田さんはカクテルのレシピ本を眺めるうちにどうしてもつづつみななり、初心者向けのジンフィズやバイオレットフizzesを練習した。

た。人々の気つ風は良く、料亭は見る見るうちに規模を広げていったそうだ。松田さん一家は店舗兼自宅の一角にある小さな仮間で寝食をともにしていたといふ。

「ウチは料亭だから着物の反物や塗り物、瀬戸物なんかを使うでしょう。季節の変わり目には日本各地から専門店の人々がたくさんの中、見本を詰めて訪ねてきたり。その様子を子どもながら見ているうちに、色彩感覚が磨かれていった気がするなあ」

松田さんは飲食の商売を横目に子ども時代を過ごした。将来は同じ道を歩むという考え方

も頭の片隅には置いていたが、建築の分野にも興味があったため、一度は大学進学のために上京する。

大真面目な顔で飘々と冗談を織りませながら話す松田さんは、少しばかりとさせられるのだけれど、「少しあは業の役に立ちたいとも思ってさ」とボソリと本音をのぞかせた。

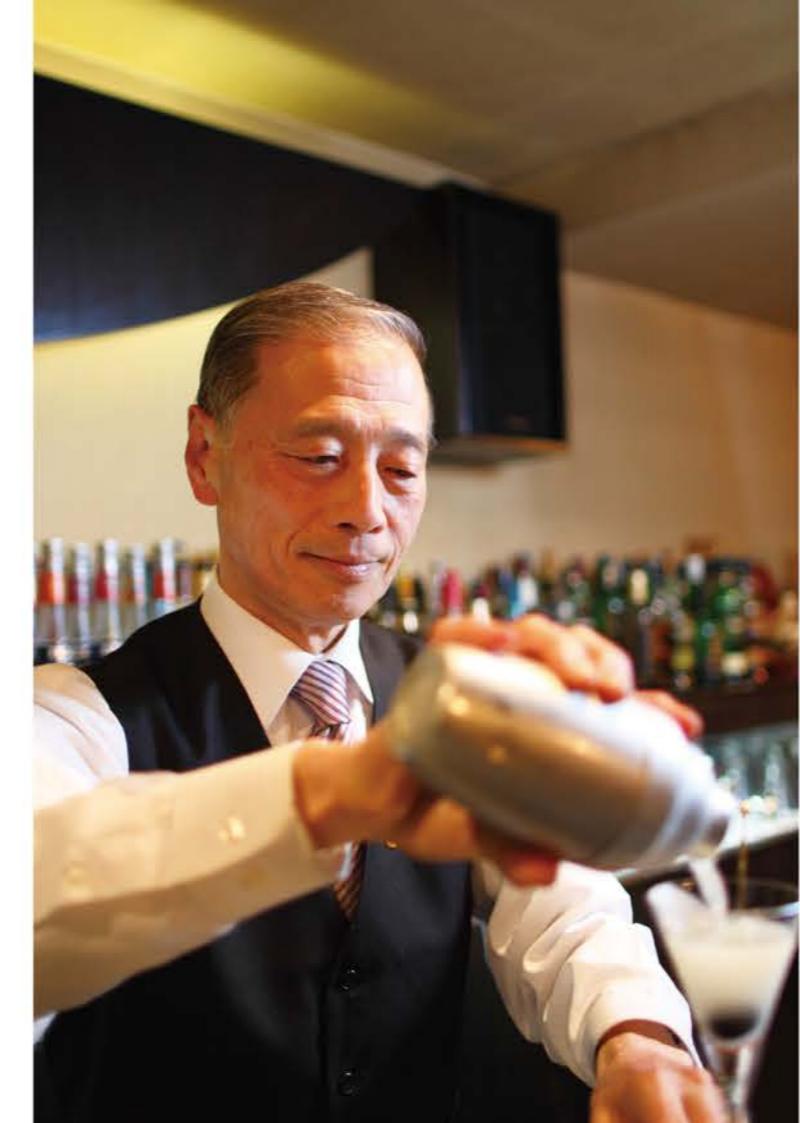
夏休みに軽い気持ちでスナックを手伝つたりしました。実は自動車会社や証券会社の内定はもらっていたんだけど、なんでもか地元に戻つてお店を手伝おうかなと思ってさ（笑）。なんでもか

な」

甲類焼酎の全盛時代に、ジンフィズを猛練習。

夏休みに軽い気持ちでスナックを手伝つたりしました。実は自動車会社や証券会社の内定はもらっていたんだけど、なんでもか地元に戻つてお店を手伝おうかなと思ってさ（笑）。なんでもか

な」



今夜、マスターの人柄に
どこまでも酔って。

HANANOYA

松田啓一さん(67歳)





「ジンフィズにはロングカクテルの基本がすべて詰まっているといわれていてね。炭酸が抜けないようバーゲーパーをステア

する技術や手首のスナップを引き寄せたシェイキングを必死に練習しました。また、お客様が練習台だったけど(笑)」

松田さんは系列のスナックを何店舗か経験し、38歳のころ、勤めていたお店の閉店に伴って「HANANOYA」を開こうと決意。社長からは独立のお祝いとしてスナックで使っていた力影石なんだけど、とにかく硬い材質でね。このカウンターのおかげで何個グラスを割ったか分からなくてよ(笑)。酔つたお客様の手が当たったり、袖が引っ掛けたり、コツチはドキドキだよね」

自慢も押しつけも、説教もない自由さ。

お店を開いてからの約30年間は決して平坦な道のりではない。松田さんは活動休止状態

だった釧路のバーテンダー協会を再始動させるために先輩後輩のことを走り回った。バーテンダーという仕事を認めてもらおうと仲間とカクテルパーティを開くも、お金の工面は網渡り状態で肝を冷やした。一方、バーテンダー協会の北海道大会ではオリジナルカクテル「挽歌」で3位入賞を果たした。

大変な労苦も、辛酸を舐めるような出来事も、胸を張れる経験も、松田さんの言葉を通して不幸自慢や押しつけ、説教にはまるで聞こえない。口数は多くないけれど、お話を一つひとつが心にスッと馴染んでいく。

「お客様からは店名にバーと銘打たないことを不思議がられるんです。だけど、ウチをバーと思わない人がいてもOKだし、オーセンティックだと感じてもうれるのもうれしい。今風いうと、フレキシブルに楽しんでもらえればいいんですよ」

なんと自由で心地良い考え方。最後に、失礼を承知でどうして30年もお店を続けてこられたのか尋ねてみると、答えはいたってシンプルだった。

「だって、これしかできないんだもん」

「ああ、このマスターの人柄にここまで酔つてしまいそうだ。」

松田さんは「ベストバーテンダー」として表彰された経験も。

HANANOYA

住 釧路市川上町5-1 すえひろ五番街1F
TEL 0154-23-0381
営業時間 18:00~翌1:30
休日 日曜日



わがマチの風景

その1 行商のおばちゃんのハナシ

昔、丸三鶴屋のあった辺りに発砲スチロールの山と、その脇にチヨンと併むほつかむり姿の母さん。干したホッケやカレイなんかを吊るしてのんびりとお客様が来るのを待つ、その光景はまるで昭和にタイムスリップしたかのよう。

終戦間もない釧路のマチで、まだ夜も明ぬ時間から「よいしょ」と地面を踏みしめて重そなりヤカーを引く人ら。山のように魚箱を積んで、幼子も乗っけて毎日毎日マチに出てます。生きしていく為無我夢中だった時代。小さな背中にリヤカーと家族の生活と子供の未来を背負い魚を売り続けたのです。その勇姿は「リヤカーチーム」と呼ばれ、釧路のマチの名物ともなりました。

日に焼けて、深いしわの刻まれた顔は、家族を守り、逞しく懸命に生きた証。そしてこのリヤカーチームが先駆者となって築き上げたのが、長年人々に親しまれてきた釧路和商市場です。現在M00のある辺り。魚揚場があつたこの場所は母さん達の社交場でもありました。そのしゃがれた声のおしゃべりは、それはそれにぎやかだったそう。

晴れた朝の幣舞橋に立ち、目を閉じると、母さんたちの元気なしゃがれ声が今にも聞こえてきそう。

**今年3月オープンの
ボロボロの喫茶店**

喫茶ボロンジ

未広町3丁目2-17
14:00~24:00
日曜・木曜日

年季の入った引き戸を開けるとカウンターだけの喫茶店。「何の変哲もない」がコンセプトと女性オーナーは言いますが、趣のある雰囲気がとても心地よいです。店名の由来は「ボロボロのラウンジ」。オーナーデザインのかわいいロゴのカップでコーヒーを飲みながら、築50年以上の建物でゆっくりしませんか？

SHOP 2

**「自分が着たい服」を
売るセレクトショップ。**

店主は10代の頃から服屋になりたいと思い、大学卒業後、アメリカに買い付けに行き古着屋をオープン。徐々に古着から新品に移行してきたそうで、今では店主も把握できないほどのブランドを取り扱っています。ネット販売は行いませんので、お店に足を運んで、店主と一緒に気に入りの一着を探してみてはいかがですか？

PULP WAGON

錦町5丁目1-1幅口ビル1F
0154-22-1136
12:00~19:30 不定休

SHOP 3

**「自分が着たい服」を
売るセレクトショップ。**

店主は10代の頃から服屋になりたいと思い、大学卒業後、アメリカに買い付けに行き古着屋をオープン。徐々に古着から新品に移行してきたそうで、今では店主も把握できないほどのブランドを取り扱っています。ネット販売は行いませんので、お店に足を運んで、店主と一緒に気に入りの一着を探してみてはいかがですか？

PULP WAGON

錦町5丁目1-1幅口ビル1F
0154-22-1136
12:00~19:30 不定休

北大通&駅ウラのDeepなお店を紹介！

TOCO-TOCO MAP

とことこマップ
SHOP INFO

**お米屋さんに陶器と
雑貨がいっぱい！**

石井米穀店・陶庫

北大通2丁目7
0154-22-3634
9:00~17:00
日曜日

昭和2年創業の老舗の米屋さん。外から見てもわかりませんが、地下に陶器、1階では雑貨が売られています。もともと、陶芸をたしなんでいた奥様が、平成5年の米騒動の際に空いたスペースで陶器を売り始めたのがきっかけとか。今ではお客様それぞれの好みを想像しながら買い付けにいくそうです。

1

2

3

**夏服の悩み、
相談してみようかな？**

**夏服の悩み、
相談してみようかな？**

柳町公園大通

米粉ぱん工房 COCOPIA P34

米粉パンと小麦パン合わせて60種類。
黒いPOPが「米粉パン」の目印。
米粉のクロワッサンがあつべり！

炉ばたみゆき

元々は新富町でやっていた「みゆき」。
平成7年からこの場所で。今のママは4代目。
干物は自家製。かまぼこは、ずっと阿部蒲鉾。
常連さんに愛されているお店。

焼肉あかべこ

マスターとバイトの
絆さんの掛け合いが
なんとも絶妙！
ちなみに窓にかかる
ブランコは、絆さんの
ごはありません。

**おじいさんが一軒でやっている。
いつも開いてる訳ではないが、
様々な骨董品があり面白い～
昔のおれの中にあるいろんな
意味を教えて貰い、興奮。**

おまこどや。

本を愛してやまないご主人、
取材した時も、いい本が入ったと大興奮。
私は、アイス料理の本を購入。

まるみ P19 卌当店

おかずが量り売りで運べる！
お惣菜はなんと常時50種以上！

甘秀堂

昔ながらの和菓子屋さん
モ力大福が人気

**10時~22時
まび、通じて
営業中！**

FLORIST KITAYA

創業55年。
今のご主人は2代目。
お花屋さんってやっぱりいい香り～

金原商店

濃厚なミートソースが美味。
スペゲティの量がすごくて思わず
聞いたら「200g~300g？」アバウト！味
かい銘板が特徴的。

長沢書店

日沼と47年創業の
マチの本屋さん。
昔から使っている
連続伝票の機械に
私はすっかり夢中に…！

**ピアノ
レッスン
ハウス**

豆腐房店

古書店

金川足袋

**16mm映写機に
オードリーハップパンのポスター...etc...
映画好きのオーナーがやっている純喫茶。
オーナーさんは、FMくしづで映画の
素晴らしさを伝えています！必聴！**

毎日50種以上のお惣菜が
並ぶお弁当屋さん。

まるみ弁当店

- 共栄大通2丁目1-6
0154-22-3247
- 10:00～夕方営業
(お惣菜が無くなり次第終了)
- 土曜日・日曜日・祝日

好きなおかずを好きな分だけ詰めて自分だけの
お弁当を作ってくれます。藤原さんご夫婦が朝5時
から仕んでいるお惣菜は優しくてあったか
い家庭の味。毎日通う常連さんも多く、一番人
気は「ホウレンソウナムル」だと。注文すると量
り売りのおかずを手際よく詰めてくれるパートさ
んたちも必見です。



SHOP
10

駅裏の寂しい路地にある 一息つけるお店

今は少し寂しい駅裏鉄北センター。そこに、ご夫婦で20年以上続けられている炉端焼きのお店があります。息子さんが子供の頃、「ととさま」とご主人を呼んでいたことから「とと」。その息子さんは隣で「祐っと」というお店を開き、店内の扉で繋がっています。家族で支え合いながら、駅裏で美味しい料理とお酒を提供しています。



SHOP
8

炉ばたとと

- 若松町2丁目10 鉄北センター内
0154-22-6371
- 18:00～23:00
- 日曜日・祝日

ふわもち米粉の “米ワッサン”が絶品です！

2016年に栗林さんご夫婦がOPENしたパン屋さんはあっという間に人気店に。地元食材をふんだんに使ったパンが店内に所狭しと並んでいて、米粉と小麦のパンがPOPの色で色分けされています。一番人気の米粉のクロワッサン『米ワッサン』は未体験の美味しさ！ぜひ味わってみてください。



米粉パン工房COCO

- 若松町19-9
0154-65-9006
- 8:30～18:00
- 月曜日・火曜日



なぜ、外にブラジャーが 下がっている？

焼肉あかべこ

- 若松町4丁目6
0154-31-2467
- 17:00～23:00
- 火曜日

是非、
お店の前に行って、
見てみてね！



SHOP
9

外を歩いているとどうしても目に入ってしまうブ
ラジャー。おそるおそる入ると明るいマスターが
お出迎え。面白い事が大好きなマスターが目立
つようにはじめたそうです。群馬で30年務め、
この地で開店して15年と腕は本物。ホルモンと
タン塩がオススメ！看板娘の綾さんとの掛け合
いも見事です。



釧路で模型と言えば?
ここですね。

ミヤケ模型

- 北大通13丁目1
0154-22-2269
- 10:00～20:00(日曜日10:00～19:00)
- 木曜日

SHOP
6



とにかく、
品揃えが
豊富です。

釧路ならではの 「おふくろの味」です。

釧路駅構内にある「安くて、美味しい」おにぎり屋さん。「おふくろの味」という言葉がピッタリです。「なるべく地元のものを」と、ザンギマヨネーズ、シカ辛握りなど、釧路ならではのラインナップも充実。朝早くから旅行者が買い求め、電車の発車間際は大忙し！太巻き、いなりも大人気です。



おにぎり買って、
出発進行！



おにぎり買って、
出発進行！

一番おいしい時に
食べて欲しいから。

パン マルシェ&阿部蒲鉾店

- 栄町8丁目1
0154-23-4100
- 8:00～19:00
- ※パンはお昼寝焼き上がり次第
- 日曜日

SHOP
4



毎日の食卓が、
ちょっと楽しくなる食器を。

陶器のみずの

- 北大通12丁目1
0154-23-3181
- 10:30～18:00
- 日曜日・月曜日



柄が手描きの
ステキな器が
いっぱいあるよ

「100円のお皿から高価な器までそれぞれの良
さがあるので、使いながら自分らしく楽しんでも
らうのがいいですよね」と、ニコニコしながら話
してくれる水野さんとの会話がとっても心地良
く、つい長居したくなってしまうお店です。いつも
の食卓にお気に入りの器を添えてみませんか？



わがマチの風景

その2 赤ちょうちん横丁のハナシ

鳩壺

「おはんです。いやあ寒いねー。」
外のひんやりとした空気とともに
に今夜最初の客がやってくる。
「寒いしょ。今年の夏はだめだ
ね。そんな会話をしながら、ハト
燐に入った酒を網に乗っけて、焼
き鳥なんかを慣れた手つきで並
べていく。ハトの様な形をした徳
利だからハト燐。昔はよく見かけ
たものだ。全部入れても四畳ほ
どの小さな店は、くぐりと回転
すれば大抵の物に手が届く。こ
れが便利で良いのだと、白髪混
じりの店主は笑う。

戦後間もない頃のこと。満州や
樺太からの引き揚げ者が日銭
稼ぐ為にリヤカーを引き、路
上で店を始めたのが「赤ちょうち
ん横丁」の始まりだというから、
その歴史は結構古い。夜の帳が
下りると、近くの公園に停車し
てあたりアカーシが、1台、また1
台と動き出す。気づけば栄町
大通付近には50もの店が集ま
たんだとか。潮風がしみる夜の
歓楽街。燐酒と焼き鳥を求める
客が赤ちょうちんを目指して
やつてくる。股の間に火鉢を挟ん
で暖をとり、焼き鳥をかじりな
がら呑む酒の旨いこと！

そんな釧路の夜の街を威勢良く
闊歩するのは、鉢巻きにゴム長靴、
腹巻きに100万単位の札束を
ねじ込んだ漁師達。彼らが夜の
歓楽街にやって来るとマチが色め
き立つ。命がけの大仕事を終えた

開放感も手伝って、腰が立たなくな
なるまで飲み続けるものだから、
彼らが来るとなしばらく店を休ん
でも大丈夫なほど潤つたとか。こ
れがいわゆる「やんちゃ」な衆で
「やん衆」。栄町辺りを下を向いて
歩くと、ほら、あちこちに紙く
ず：いえいえ、漁師の腹巻きから
こぼれたお札が落ちていたんだそ
う。

赤ちょうちん横丁が、今の場所
を定位置としたのは、昭和36
年。夜の酒場が人とお金に沸い
ていた黄金期まだ中の頃の
こと。近い未来、漁業不振がマ
チに暗い影を落とす事になろ
うとは誰が想像しただろう。
すかり冷え込んだ夜の歓楽街
に、長いこと手を入れていないオ
ンボロの建物。汲み取り式のトイ
レスは匂いがきつく、薄暗くシャッ
ター通りとなつた路地に足を向
ける者は、もはやなかつた。そん
な今にも消えそうな赤ちょうち
ん横丁の灯に「待つた」をかけた
のは横丁に通う客達だった。

2005年春。有志で結成され
た「赤横応援団」。赤横再生の為
に力を尽くしたのは、建築業、看
板会社、設備業者等々。それぞ
れが人脈や機材、知識を持ち
寄った。明るく、安全で楽しく呑
める場所へと生まれ変わった赤
ちょうちん横丁は、今年で66才。
北海道最古の屋台のあかりは今
夜も元気に灯っている。



赤ちようちん横丁

酒も好きだが酒場が好き

そんな同士が集う場所

あっちの店では
静かにしつとり酒を飲み

こっちの店では
あははわははと笑い酒

そっちの店では
食べて喋ってああ忙しい

4置ちょっとのちいさな箱に

ちいさな箱を覗いてごらん

あっちの店では
静かにしつとり酒を飲み

そっちの店では
あははわははと笑い酒

そっちの店では
食べて喋ってああ忙しい

4置ちょっとのちいさな箱に



●取材協力 赤ちようちん横丁(住所 川上町4-1)

みかさ 日曜休 0154-31-0305 / みいちゃん 日曜・祝日休 0154-25-4353
Tavola日曜・第2・第4月曜休 070-2424-8686 / つむぎ家 不定期 080-6065-1255

生まれ育ったこの街を離れてどのくらい経つだろう。
子供の頃に見ていたこの街は、

何もかも大きくて、活気に満ち、
駅から幣舞橋までが果てしなく遠かつた。
幣舞橋の突き当たりの丘にある、

大きな花時計が「マチ」の終わりの目印。
バスはにぎやかなマチを抜け、

ゆるやかな下り道が続く街並み走る。
目の前には夕日に染まる真っ赤な海。

そして、美しい海岸沿いを、春採の方へと向かう。

大人になって、再びこのマチに降り立つ私の
視線の先には、昔と変わらずに花時計がある。

あれほど遠くに思えていた花時計までの距離はとても近く、
途方もない時間が経った事を告げられたような気がした。

車のハンドルを握り、小さくなつたマチを抜け、
曲線の坂道を登り、ゆるやかな坂道を下りていく。

窓の向こうに見えたのは、あの頃とおなじ、

夕日に照らされてキラキラ光る真っ赤な海だった。

懐かしい人達の顔が脳裏に浮かんだ。

ホルモン 百萬里

店のお客はホルモン目当てか。
姉さん目当てか。

うちの店、昔から代々姉さん2人体制で切り盛りしてるので。前は70近いベテランの姉さんもいたからさ、私らなんてまだ若手だよねえ(笑)。まあでも、あうんの呼吸っていうの?「ふみちゃん・よしちゃん」コンビで、いいあんばいでやってます。あら兄さん、ホルモン焼きすぎ。うちのは一回ボイルしてるから、油が落ちてちょっと色が変わったくらいが食べごろなのよ。美味しいよ~。しゃべってないで、早く食べてごらん。

ホルモン好きにとっては「聖地」とも言える百萬里。昭和32年創業の老舗。

ホルモン 百萬里

釧路市若松町4-2 ① 0154-22-1771



きちゃつたんですねもの。
ビビビッ!と

スマホ？れとろ？

なんだかよく分かんないけど、
よく来たネ。

うちのお店もそろそろ45年が経つかな。当初は天井までひと繋がりになった漆喰の壁とかレンガをアクセントにした内装が斬新だなんて評判だったんですよ。僕がヨーロッパの片田舎の写真を見てイメージを伝えた雰囲気なんだよね。意識したわけじゃないんだけど、漆喰は古びれば古びたなりの味が出てくるから壁紙みたいに張り替えがいる。あと、昔ビルの上階で火事が起きた時は地下のお店だったから放水の被害が少なかつたんだ。ただ、何より助けてくれているのはお客様。中には高校生のころから通ってる人もいてさ、だけど今じゃその人、定年退職してるんだから参っちゃうよ(笑)。

あのころは釧路の景気も良くて、学生さん、O-さん、酒場

が開く時間を持ちわびる漁師さんで一杯だったなあ。最近はマチナ力もすっかり寂しくなつたけど、暗い話ばかりじゃないんだよ。若い人がレトロさを求めて訪ねてきてくれるおばあさんに似てるつてキヤツキヤ、キヤツキヤいつたりね。うれしいよ、若い子が来てくれるのって。だからさ…まだまだ辞められないんだよね。

わがマチの風景

その3 レストラン泉屋のハナシ



イマドキの釧路っ子はご存知ないかもしない。家族そろって丸三鶴屋というデパートをぶらぶら見て回り、映画館でポップコーンをほおばって、母に「ほれ、こぼさないの」なあんて叱られる。そんな休日を末広や北大通エリアで楽しめたことを。残念なことにどちらも失われてしまつたけれどこの定番コースに必ずといっていいほど組み込まれていたのが、いじめられたことがある。「なあんて叱られる。そんな休日を末広や北大通エリアで楽しめたことを。残念なことにどちらも失われてしまつたけれどこの定番コースに必ずといっていいほど組み込まれていたのが、いじめられたことがある。誰もが知る「レストラン泉屋」。

創業は昭和34年。現社長の小泉俊さんが母親の始めたお店を受け継ぎ、洋食屋さんとして腕をふるうところから始まった。今となっては信じられないが、当時の釧路の人々は「オムライスって何?」「卵焼きでご飯を包んだ料理らしいよ」とウワサになるほど洋食に馴染みが薄かったという。最初は目玉焼きを乗つけたカレーライスの珍しさから人気が広まり、ボタージュやグラタンなど、釧路の人々の「洋食初体験」をまたたく間に生み出していくたのだが、年配の中にはマカロニやピザを初めて食べたのが「レストラン泉屋」という方も少なくないだろう。このお店は釧路の文化でも軽い「カルチャーショック」を受ける人もいる。家族四代にわたる常連さん。帰省のたびに「故郷に戻ってきたと実感する」と顔を出す元釧路人。受け継がれるべき場所として、帰ってくるべき場所として遺伝子レベルで愛されているような気さえする。ところで、名物「スパゲツ」や地元の人がよく頼む「泉屋風」、隠れた人気メニュー「ポークスペシャルライス」など料理はどれもボリュームたっぷりだ。ともすればデカ盛りやB級グルメに扱われるがちだが、実は小泉さんは幼少期に戦争を経験し、大変な時代を生き抜いてきた。ひもじい思いをしている友人を目の当たりにする事もあった。だからこそ、みんなにお腹一杯ご飯を食べほしいと盛り良くしているのだ。釧路っ子が「レストラン泉屋」に集う理由。それは、料理を通して小泉さんの慈愛と切々とした願いを受け取っているからなのかもしれない。



6~9月の期間限定
のスイーツなので
今がチャンス!

ピーターパンの コーヒーゼリー 600円

なんて美しいお花なんでしょう…!!
マスターがアイスクリームで作る
「花びら」が乗ったコーヒーゼリーは、
ほろ苦さと甘さが丁度よく
口の中に広がります。
食べるのが勿体ないけどいただきます!

喫茶ピーターパン
①釧路市北大通6-1



Sweets

4

喫茶ラルゴの クレームブリュレ 300円

オーダーしてしばらくすると、カラメルのとっても
良い匂いが店内に広がります。
珈琲とデザートをお供に、1Fの書店で買った本を
開いてゆっくりと過ごすのもいいですね。

豊文堂書店 喫茶部ラルゴ
①釧路市北大通8丁目1



喫茶ボロンジの ガトーショコラ 550円

7.5坪、カウンター6席の小さな喫茶店。
この小さなお店で焼き上げるガトーショコラは、
「重すぎなくて食べやすい」と人気です。
夜遅くまで営業しているので、
酔い覚ましのバスイツ&珈琲はいかが?

喫茶ボロンジ
①釧路市末広町3-2-17



Instagram

スイーツ食べたら投稿してね!

インスタグラムで「歩らいぶ」をフォローの上、
「#歩らいぶ釧路スイーツ」のハッシュタグをつけて投稿して下さい。
「こんなものあったよ!」という情報も大歓迎!
みんなでスイーツ情報をシェアしましょう!



喫茶BROSの オリジナルパフェ 700円

フルーツグランーラ、生クリーム、アイス、みかん、
バナナ、キウイ、パイん、りんご、チェリー、
ポッキーと盛りだくさん!
レトロなコカコーラのグラスも可愛い。

喫茶BROS
①釧路市大川町3-12 北塩ビル1階



生クリーム、アイス、
いちご、バナナ、もも、
チェリー、ポッキーが
乗っています。

米粉ぱん工房COCOの 季節のフルーツデニッシュ 180円

もっちりした米粉のデニッシュ生地に、
季節のフルーツをトッピング。生地と
カストードの甘さと、フルーツの酸味
が良いあんぱい。

米粉ぱん工房COCO
①釧路市若松町19-9



Sweets

1

1

取材の時期は、
爽やかな
オレンジデニッシュ
でした。

港町スイーツ図鑑

MINATO-MACHI-SWEETS

マチ歩きの合間に甘いものはいかが?
クラシカルなものからハイカラなものまで
<しろマチナカにある、心ときめく
スイーツの数々を集めました。

Repas(ルパ)の リコッタチーズケーキ 昼520円 夜700円

焼き菓子の香ばしさとともに、白糠「酪恵舎」さんの
リコッタチーズがふわっと香ります。
重たくなくて食べやすい焼き菓子的なケーキは、
手土産にもぴったり。

カフェとバルRepas
①釧路市北大通6-2

ふんわり香るチーズの
匂いがたまらない。



*価格は全て税込みです

われらのコレがイチオシ!
EVENT

ら・フェスタ2017

8月26日(土)11:00~翌1:00
8月27日(日)9:00~15:00

「釧路ラーメン麺遊会」加盟店はもちろん、他地域のご当地ラーメンや市内の飲食店の看板メニューも味わえる目玉イベント。昨年は2日間で約8万人を動員し、期間中の会場は大盛り上がり。

会場: イオンモール釧路昭和駐車場
(釧路市昭和中央4丁目18-1)
お問い合わせ: 釧路ラーメン麺遊会事務局
(TEL 0154-46-2573)

昨年は
2日間で
約8万人
を動員!!

応援隊 02

ラーメンで 釧路を盛り上げる!

釧路ラーメン麺遊会
会長 佐藤貴之さん(写真右)
副会長 富樫寛之さん(写真左)

市民とラーメン店主の釧路を思う熱い気持ち。

「細麺・醤油味・あっさりかつおダシ」が特徴の釧路ラーメン。平成12年、地元が誇るこの一杯を札幌、函館、旭川に続くご当地ラーメンに押し上げるべく立ち上がったのが「釧路ラーメン麺遊会」の前身組織。結成メンバーはラーメン店主たち…と思いきや釧路市民だというから驚きです。

「市民がラーメンのイベントを次々と開くうちに、僕ら店主が釧路でもこんなに面白いコトができるんだと感化されて後に続いた形です…おハズカシい話ですが(笑)。約3年後にラーメン店の店主たちがメンバー入りして正式に会をスタートしたものの、いつも市民会員に助けられっ放し」と会長の佐藤さんは笑います。

事務局副会長の富樫さんは「僕ら市民会員は地域の活性化に一役買いたいというただ一心。今は伝統的な釧路ラーメンだけにこだわるのではなく、市民と店主が手を携え、ラーメンを通じたイベントや食育の授業でマチを盛り上げることこそが会の願いです」と言葉を続けます。会員の根底に横たわっている「釧路が好き」という思いは、ラーメンに負けず劣らず「熱い」のです。

応援隊 01

人の魅力で 釧路を盛り上げる!

市民団体クスろ
代表/ 夏掘めぐみさん(写真左)
副代表・デザイン/ 名塚ちひろさん(写真中)
デザイン/ 磯優子さん(写真右)

釧路のコアなファンを数多くつくるために

この小冊子の「末広放浪記」の案内人は「クスろ」の皆さん。メンバーはラーメン店スタッフやデザイナーなどの本業を持つかたわら、釧路を盛り上げるさまざまな活動に取り組んでいます。「私たちがクスろを立ち上げたのは平成26年。発端はというと…飲み会です(笑)。人口も産業も寂しくなってきたこのマチに何か力になれないかと他愛もない世間話を交わしたことから、アイデアを出し合うようになりました」「クスろ」の皆さんが着目したのは人。釧路の自然や観光、食といった資源を支える魅力的な人をフリーペーパーやWebサイト、イベントなどで紹介し、「会いに行きたい」と思ってくれるファンをつくるために日々モーレツに走り回っています。「例えば釧路のすてきな人とふれ合える旅『ひとめぐりTOUR』も企画しました。私たちの活動で新しい交流が生まれるのは何よりうれしいのですが、いつも『君らが一番楽しんでない?』といわれます(笑)」実は活動による利益はほぼゼロだと。なのに、こんなに笑って頑張れるのはなぜ?「もちろん…原動力は釧路LOVE!」

●クスろ [拠点] 釧路市春日町4-3 <http://kusuro.com/>

われら
マチの
応援隊

われらのコレがイチオシ!
SPOT

釧路一之宮 岩島神社

北海道では珍しい見開きの御朱印!!

クスろでも「語り場ジンジャー」の場所として活用させてもらっている、マチで最大規模の神社。港を一望できる「米町公園」に隣接し、周囲はレンガ道路やお寺が建ち並ぶ歴史の深いエリアでもあることから散策にもオススメ。道内では珍しい見開きの御朱印がいただけることから最近静かなブームに。

釧路市米町1丁目3-18
TEL: 0154-41-4485



「人と人との出会いは偶然じゃなくって、会うべきして出会ってると思うんだよ。今日こうして、みなさんと会ったのもね。」取材が一段落して珈琲を頂いている時、店のマスターにそう声をかけられました。

マスターの言うとおり、歩らいぶの取材でマチを歩いていると、色々な場面で「ご縁」を感じることができます。

「あの店、行ってみなよ。
うちから紹介されたって言っていいからさ。」

それは、まさにこのあと飛び込みで行こうと思っていたお店。

「うちの店は○○さんのところの
珈琲豆を使ってるんですよ。」

それは、以前に取材でお世話になった珈琲店。

末広の飲み屋で意気投合した人が、翌日会いに行こうと思っていた人だったり、

はじめは点と点だったマチが、たくさんの「縁」で、繋がっていきます。
そんな「ご縁」の積み重ねで、この一冊は出来上がります。

くしろシゴトガイドも、この10年間、皆様からたくさんのご縁をいただきながら、釧路のマチと一緒に育ってきました。
そしてこれからも、いたいたい縁を紡ぎながら、このマチと一緒に歩んでいきます。

釧路の皆さんに感謝を込めて。

株式会社北海道アルバイト情報社
マチ歩きBOOK歩らいぶ編集チーム

くしろシゴトガイドメンバー一同

QUOカードプレゼント

マチ歩きBOOK 歩らいぶをご覧頂いた感想をお寄せ下さい。

ご感想を頂いた方の中から抽選で10名様にクオカード(1,000円分)をプレゼントします。

期間○8月1日～9月18日 ※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせて頂きます。

応募○QRコード又は

「歩らいぶ」ホームページよりご応募下さい。

こちらよりアクセス&ご応募下さい➡



検索

URL <https://www.haj.co.jp/holive/> 歩らいぶ